

	ページ	番号
<b>スペシャル機能</b>		
HOLDの各機能一覧	(1)	(2)
M. MON. CALLキーの機能	(3)	
スペシャル機能 ON/OFF	(4)	① ②
特殊群番の設定	(4)	③
CHの入れ方	(4)	④
リザーブメモリーについて	(4)	⑤
リセット中の留守番及び群番戻し	(5)	⑥ ⑦
スペシャルリザーブ	(5)	⑧
レザーブメモリーの仕組み	(5)	⑨
リザーブを呼び出す・記憶させる	(6)	⑩ ⑪
画面数字キーの操作	(7)	⑫
待ち受けのセット・解除	(8)	⑬
自動呼び出し	(8)	⑭
<b>HOLDの各機能</b>		
スキャンスピードの切替え	(9)	①
全モード及びメモリースキャン	(9)	② ③
空きチャンネルスキャン	(9)	④
全モード待ち受け	(9)	⑤
スペシャルサーチ	(9)	⑥
自動リザーブ機能	(9)	⑦
全群番号リザーブ	(10)	⑧
自動・多群番・タイマーリコール	(10)	⑨ ⑩ ⑪
送信・受信感度切り替え	(10)	⑫ ⑬
ローカル・一分間モード	(10)	⑭ ⑮
ATIS信号カット	(11)	①
群番解読	(11)	②
制御信号妨害	(11)	③
動作音の切り替え	(11)	⑥
目覚まし時計	(11)	⑦
タイマーカット	(11)	⑧
<b>免許番号に関する機能</b>	(12)	
免許番号待ち受け	(13)	①
全群番号待ち受け	(13)	②
チャンネルメモリーの仕方	(13)	③

オプションパーツで自動車電話盗聴が可能です。地域によって聞こえない所があります。

◎ HOLDの機能一覧表

HOLD + 1 + 1	⇒ ON→スキャンスピード高速	OFF→スピード低速
HOLD + 1 + 2	⇒ ON→全モードスキャン	OFF→単一モードスキャン
HOLD + 1 + 3	⇒ ON→メモリースキャン	OFF→順番CHスキャン
HOLD + 1 + 4	⇒ ON→空きCHスキャン	OFF→使用CHスキャン
HOLD + 2 + 1	⇒ ON→全モード待ち受け	OFF→単一モード待ち受け
HOLD + 2 + 2	⇒ ON→スペシャルサーチ	OFF→普通のサーチ
HOLD + 2 + 3	⇒ ON→リザーブ機能ON	OFF→リザーブOFF
HOLD + 2 + 4	⇒ ON→全群番号リザーブ	OFF→一致した群番だけリザーブ
HOLD + 3 + 1	⇒ ON→PTTリコール1分	OFF→PTTリコールなし
HOLD + 3 + 2	⇒ ON→PTTリコールいつも	OFF→1分以上握ってればリコール
HOLD + 3 + 3	⇒ ON→多群番リコール	OFF→普通のリコール
HOLD + 3 + 4	⇒ ON→タイマーリコール	OFF→普通のリコール
HOLD + 4 + 1	⇒ ON→受信感度低減	OFF→受信感度最大
HOLD + 4 + 2	⇒ ON→送信出力低減	OFF→送信出力最大
HOLD + 4 + 3	⇒ ON→ローカルモード	OFF→制限なし
HOLD + 4 + 4	⇒ ON→1分通話モード	OFF→制限なし
HOLD + 5	⇒ ON→ATIS信号カット	OFF→ATIS信号送出
HOLD + 6	⇒ ON→群番号解読	OFF→群番解読しない
HOLD + 7	⇒ ON→制御CH妨害	OFF→妨害しない
HOLD + 8	⇒ ON→80CHモード	OFF→158CHモード
HOLD + 9	⇒ 切断信号の送信 (ただし、通話CHのみ)	
HOLD + C	⇒ 目覚し時計機能	
HOLD + M	⇒ ON→タイマーカット	OFF→タイマー動作

<b>HOLD</b> + <b>HOLD</b> + <b>0</b> ~ <b>9</b>	⇒ 群番号コピー
<b>HOLD</b> + <b>HOLD</b> + <b>HOLD</b>	⇒ 免許番号吸い取り
<b>HOLD</b> + <b>HOLD</b> + <b>MON</b>	⇒ 自局の免許番号表示
<b>HOLD</b> + <b>HOLD</b> + <b>CALL</b>	⇒ 相手局の免許番号表示
<b>HOLD</b> + <b>MON</b>	⇒ ON→全群番号待ち受け    OFF→待ち受け群番号だけ
<b>HOLD</b> + <b>CALL</b>	⇒ ON→免許番号待ち受け    OFF→群番号の待ち受け
<b>HOLD</b> + <b>REMOTE</b>	⇒ ノーマル機能
<b>HOLD</b> + <b>MIC END</b>	⇒ HOLDから抜ける
<b>HOLD</b> + <b>END</b>	⇒ HOLDから抜ける

◎ 各状態による、マイクのキー機能

マイクのREMOTE・SHIFT・ENDの機能は、無線機の状態のより変わります。

**REMOTE** キー

リセット	—————	メモリー呼び出し
モニター	—————	1CH ダウン
スキャン中	—————	1モード ダウン
通話中	—————	連続リコール
送信中	—————	連続リコール
HOLD機能中	—————	ノーマル機能

**SHIFT** キー

リセット	—————	80CH・1MIN・LOCAL切り替え
モニター	—————	1CH ダウン

**END** キー

リセット	—————	1CH アップ
モニター	—————	リセット
スキャン中	—————	1モード アップ
通話中	—————	リセット
送信中	—————	リセット
HOLD機能中	—————	HOLD解除

◎ M キーの機能一覧表

$\boxed{M} + \boxed{0} \sim \boxed{9}$	⇒ メモリーの指定及び呼び出し
$\boxed{M} + \boxed{HOLD} + \boxed{0} \sim \boxed{9}$	⇒ チャンネルメモリーの書き込み
$\boxed{M} + \boxed{MON} + \boxed{0} \sim \boxed{9}$	⇒ チャンネルメモリーの呼び出し
$\boxed{M} + \boxed{CALL} + \boxed{0} \sim \boxed{9}$	⇒ メモリ-0~9の待ち受け設定、解除
$\boxed{M} + \boxed{CALL} + \boxed{C}$	⇒ P-CODEの待ち受け設定、解除
$\boxed{M} + \boxed{CALL} + \boxed{M}$	⇒ H-CODEの待ち受け設定、解除
$\boxed{M} + \boxed{CALL} + \boxed{HOLD}$	⇒ L-CODEの待ち受け設定、解除
$\boxed{M} + \boxed{CALL} + \boxed{CALL}$	⇒ A-CODEの待ち受け設定、解除
$\boxed{M} + \boxed{CALL} + \boxed{\text{マイク REMOTE}}$	⇒ B-CODEの待ち受け設定、解除
$\boxed{M} + \boxed{CALL} + \boxed{\text{マイク END}}$	⇒ E-CODEの待ち受け設定、解除
$\boxed{M} + \boxed{\text{マイク REMOTE}} + 12\text{回のキー入力}$	⇒ 免許番号の書き換え

◎ MON キーのCH指定方法

$\boxed{MON}$	⇒ リセットの場合は、前回使用のCH	モニターの場合は、スキャン
$\boxed{C} + \boxed{0} \sim \boxed{9} + \boxed{MON}$	⇒ メモリ-CHの呼び出し	
$\boxed{C} + \boxed{0} \sim \boxed{9}$ のキー-2回+	$\boxed{MON}$	⇒ キー入力のCHへモニター
$\boxed{C} + \boxed{1} + \boxed{0} \sim \boxed{9}$ のキー-2回+	$\boxed{MON}$	⇒ キー入力のCHへモニター

◎ CALL キーの機能

リセット状態では、自動呼び出し その他の状態では、CH表示

# S F X 取扱説明書

## ◎最初に

本機にはノーマルモードとスペシャルモードがあります。ノーマルモードについては、ノーマルの取説を参照して下さい。ノーマルからスペシャルに戻るには、暗証番号が必要ですので忘れないで下さい。

### ① スペシャルモードの入れ方

MONキーを押して、CHが表示されれば、すでにスペシャル状態になっています。スペシャル状態でない場合は、以下の操作を行って下さい。

**HOLD** + **REMOTE** + **暗証番号** ⇒ **○SET-** の表示となる。

### ② ノーマルへのもどし方

**HOLD** + **REMOTE** ⇒ **ノーマル機能**

### ③ 特殊群番号の打ち方

0～9の数字以外の特殊群番号が打てます。“C”に続く次のキーです。

**C** ⇒ **A**                      **M** ⇒ **B**                      **HOLD** ⇒ **C**

**CALL** ⇒ **D**                      **REMOTE** ⇒ **E**                      **END** ⇒ **F**

### ④ CHの指定を行います。

例 50CHに指定                      **C** + **5 0** + **MON** ⇒ **0 50**

例 123CHに指定                      **C** + **1 2 3** + **MON** ⇒ **0 123**

### ⑤ リザーブメモリーについて

- リザーブメモリーとは、一種の裏メモリーです。SFXでは、1600にも増えたCHを、十分有効に使用するのには、困難なほどになりました。そこで、リザーブメモリーを活用すれば、ある程度のCH、群番の管理を機械にまかせてしまおうというものです。
- リザーブできる数は、8個までです。9個目を入れようとすると最初の1個が消されてしまいます。
- 群番、CH、モードまでをワンタッチで記憶出来てしまう便利な機能です。  
あらかじめセットしておき、CHからCHへ、瞬時のQSY（CH移動）に、また、多数のグループとの掛け持ちQSOも、らくらくOKです。
- リザーブメモリーの使い方としては、以下の4とうりがかもっとも便利と思われます。
  1. リセット待機中、呼ばれた群番、CH、モードを記憶して、リセット状態を続ける。
  2. リセット待機中、群番解読で、次々表示される群番をためておき、希望の群番号のところまで、後戻りさせる。
  3. モニターサーチから、スペシャルサーチを行ない、待ち受けと同じ群番を見つけたら、その群番、CH、モードを記憶して、スペシャルサーチを続ける。
  4. 自分であらかじめ、リザーブメモリーに記憶しておき、そのCH間を自由に行き来する。

下記に、それぞれの機能の組み合わせ方法を例として記します。

⑥ リセット中の留守番機能

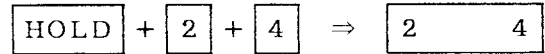
自動リザーブ機能を、ON にします。



以下をセットしてリセット待機すれば、自動着に呼び出しを受け30秒にその群番、CH、モードを記憶しリセット状態に戻します。

⑦ リセット中の群番戻し

全群番号リザーブ機能を、ON にします。

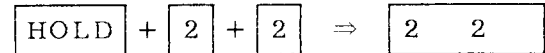


以下をセットしてリセット待機すれば、次々表示されてくる群番号を、後戻りさせて、そのCHに行くことができます。ただし、9個以上前の信号は戻りません。

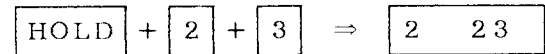
**7** のキーを押すことにより、たまっていた群番号が表示されます。

⑧ スペシャルサーチリザーブ

スペシャルサーチ機能を、ON にします。



自動リザーブ機能を、ON にします。



上記をセットして、モニターサーチをかければ、待ち受け群番と、同じ群番のCH、モードを記憶して行きます。なお、リセットをかけるまで行いますので、出かけている間に、仲間のいるCHを調べておけます。

⑨ リザーブメモリーの仕組み

リザーブメモリーには、0～7までのナンバーがついています。

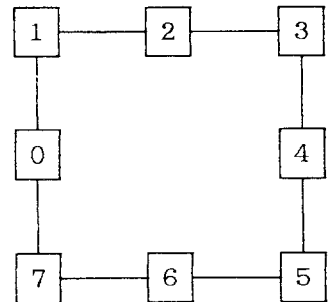
リザーブメモリーは、そこにデータが書き込まれると、自動的にナンバーを一つ進め、次のデータに備えます。

**7** のキーで、出入できるリザーブを一つ戻します。↑

**0** のキーで、使用中の状態を、リザーブします。

**8** のキーで、リザーブを呼び出します。

**9** のキーで、出入できるリザーブを一つ進めます。↓



リザーブ関係の操作を行った場合、**◁二〇二▷** の表示がされます。

ここに、現在、中央に表示されたナンバーのリザーブに入出力可能という意味です。

⑩ リザーブを呼び出す

普通の状態、 と  のキーを雄と、 のような表示が出て、群番号が出ます。ただし、上の中央の数字は、現在のリザーブのナンバーを表していますので、0～7までのどれかです。 と  のキーで、呼び出したいリザーブNO. または、群番号が表示された時に、 のキーを押します。すると、リザーブされていたCHに移ります。また、PTTを押すと、自動的にリザーブされていた群番号になっています。通話が終わって、リセットしますと、リザーブを呼び出す前の群番号に戻ります。リザーブを呼び出しても、0～9のメモリーは、壊されることはありません。

⑪ リザーブに記憶させる

ここでは、自分の希望する群番、CH、モードを、指定したリザーブに記憶します。

- A まず、機械が勝手にリザーブ機能を動作させないように、自動リザーブを止めておきます。  
 +  +  ..... ⇒  3が消えるようにする
- B 適当な群番号、CH、モードにする。
- C 記憶させたいリザーブNO. にする。  と  のキーを押して、好きなNO. にする
- D  のキーを押す。 ⇒ リザーブNO. を表示して、群番号表示に戻る。

以上でリザーブへのメモリーが行われました。

以降は、いつでもリザーブさせたNO. にして、 のキーを押せば、そのCHに群番号もあわせて移動します。

◎ CHについて

キー操作によるCH設定の場合は、01～158CHまで可能です。

(モニタースキャンの場合は、02～158CHまでです。)

ただし、制御CH (01ch) の送信は、出来ません。また、モード3, 4, 5, 6, 7は極度に周波数が離れているため無線機本体の性能により、送信できない場合があります。また、送信しても、安定した電波であるかは不明です。このため、この周波数帯での送信は、極力行わないで下さい。終段パワーモジュールの故障の原因ともなります。

自動車TELがかなり地下モードにせまっているため、地下モードでの送信は、注意が必要です。

⑫ 画面数字キーの操作

数字キーは、下図のように動作します。

キーパネルの各機能		
現在のCHより -1 CHダウン 1	現在のモードより -1モードアップ 2	現在のCHより +1 CHアップ 3
現在のCHより ハーフCHダウン 4	現在のモードより +1モードアップ 5	現在のCHより ハーフCHアップ 6
リザーブを ひとつ戻す 7	リザーブを 呼び出す 8	リザーブを ひとつ送る 9
リザーブに 記憶させる 0	C	M

なお、マイクでもチャンネルのアップ・ダウンが可能です。併用して使用して下さい。

こんなつかいかた

CHが、ハーフづつ移動できることを利用して、他の無線機が周波数がずれていた場合基準となる周波数より、高いか、低いのか、簡単なチェックができます。

ただし、SF Xの周波数を、きちんと合わせておく必要があります。  
購入された販売店で定期的に点検されるとよいでしょう。



⑬ 待ち受けのセット・解除

Mキーに続いて、CALLキーを押しますと、待ち受けのセット、解除のモードになります。

M + CALL + 1~0、C等 ⇒ PHLAB 特殊群番待ち受けセット表示

メモリ1~9の待ち受けセット表示は、表示LED左下の小文字にて表示します。  
メモリ0の待ち受け表示は、C-MEMランプにて表示します。

M + CALL + 1      メモリ-1の待ち受け 再度で OFF  
同様にメモリ-9までセット出来ます。

また、特殊群番号の場合。

M + CALL + C ⇒ P      Pの部分が点灯、消灯します。

M + CALL + M ⇒ H      Hの部分が点灯、消灯します。

M + CALL + HOLD ⇒ L      Lの部分が点灯、消灯します。

M + CALL + CALL ⇒ A      Aの部分が点灯、消灯します。

M + CALL + REMOTE ⇒ b      bの部分が点灯、消灯します

M + CALL + END ⇒ T-LIMの赤いランプが点灯、消灯します。

いずれも、点灯した状態で、待ち受けセットとなります。

また、自分で最後に表示した群番号は、上記の操作に関係なく、常に待ち受け状態となります。

メモリ-0から、メモリ-9まで、特殊群番号6種類で、あわせて、16局待ち受けです。

⑭ リセット中の、CALLに続くキーを押すことにより、自動呼び出しが可能です。

CALL ⇒ C + 0 から 9 までのキーのメモリ-群番号呼び出し。

CALL ⇒ C + C ⇒ P-cod 交通情報用群番号

CALL ⇒ C + M ⇒ H-cod 高速道路通信用

CALL ⇒ C + HOLD ⇒ L-cod 近接車通信用

CALL ⇒ C + CALL ⇒ A-cod Aコード

CALL ⇒ C + REMOTE ⇒ b-cod bコード

CALL ⇒ C + END ⇒ E-cod 緊急通信用

## HOLDの各機能

### ① スキャンスピードの切り替え

$$\boxed{\text{HOLD}} + \boxed{1} + \boxed{1} \Rightarrow \boxed{11} \quad \text{再度でOFF}$$

スキャンスピードを変えます。

### ② 全モードスキャン

$$\boxed{\text{HOLD}} + \boxed{1} + \boxed{2} \Rightarrow \boxed{12} \quad \text{再度でOFF}$$

モニターサーチの時、1回りしてCHの最初になると、モードを進めます。これにより、すべてのモードが繋がったようになり、サーチを行います。

### ③ メモリスキャン

$$\boxed{\text{HOLD}} + \boxed{1} + \boxed{3} \Rightarrow \boxed{13} \quad \text{再度でOFF}$$

CHの順番のスキャンでなく、CHメモリーのスキャンを行います。SFXには10個のCHメモリーがありますがCHメモリーについては 13P ③ 項を参照して下さい。あらかじめ使用のCHを記憶しておいて下さい。

### ④ 空きチャンネルサーチ

$$\boxed{\text{HOLD}} + \boxed{1} + \boxed{4} \Rightarrow \boxed{14} \quad \text{再度でOFF}$$

スキャンを空いているCHで止めるようにします。あくまで、機械の空きCHレベルにより判断しますので、遠くで使用している場合、また、ブレイクタイムの時などで、使用中のCHで止まることもあります。

### ⑤ 全モード待ち受け

$$\boxed{\text{HOLD}} + \boxed{2} + \boxed{1} \Rightarrow \boxed{21} \quad \text{再度でOFF}$$

すべてのモードの制御CHを、リセット中に高速にスキャンしながら待ち受けします。一度に8つのCHを聞いている訳ではないので、着信率は悪化します。全モード待ち受けをしている局を呼び出す時には、連続リコールを使用して下さい。

### ⑥ スペシャルサーチ

$$\boxed{\text{HOLD}} + \boxed{2} + \boxed{2} \Rightarrow \boxed{22} \quad \text{再度でOFF}$$

モニターサーチをする際に、受信した局と、自分の待ち受けを比較しながら行います。信号の入感するCHでは、30秒間ATIS信号を待ちますが、信号が受信出来なければ、次のCHにサーチを続けます。信号が受信できたらなら群番号を確認し、待ち受けと違えば、次のCHへ移ります。

### ⑦ 自動リザーブ機能

$$\boxed{\text{HOLD}} + \boxed{2} + \boxed{3} \Rightarrow \boxed{23} \quad \text{再度でOFF}$$

本機には、群番メモリー、CHメモリーの他に、リザーブメモリーを持っています。リザーブメモリーとは、群番、CHのメモリーとは独立して、群番とCHをペアでメモリーしておけます。ここでは、自動的にこのメモリーに機械の判断でデーターを記憶させてしまう機能です。H+2+4の機能と組み合わせて使用します。なお、次に示す全群、一致群番号のリザーブ機能は、この機能がセットされてはじめて使用出来ます。

リザーブメモリーは、全部で8個ありますが、9個目を記憶させると、1個目が消えてしまいます。別項目に、リザーブメモリーについての詳細を記していますので、そちらを参照下さい。

⑧ 全群番号リザーブ

**HOLD** + **2** + **4** ⇒ **2 4** 再度でOFF

H+2+3の自動リザーブと組み合わせて使用します。セットすると、リセット中、スペシャルサーチ中に受信した、すべての群番号と、そのCHをリザーブに記憶してゆきます。また、解除されている場合は、待ち受けセットされている群番号と一致した信号だけを、記憶してゆきます。

H+2+3、2+4をセットしてリセット待機しますと、群番解読で次々と変わってゆく群番号を、後戻りされて、そのCHに移動することが出来ます。

⑨ 自動リコール

**HOLD** + **3** + **1** ⇒ **3 1** 再度でOFF

PTTを離れた時に、自動的にリコールを送信する機能です。  
このセットだけの場合ですと、PTTを握って、1分以上たたない場合には、リコールしません。

**HOLD** + **3** + **2** ⇒ **3 2** 再度でOFF

この機能を入れると、PTTを離れた時にリコールします。

⑩ 多群番一括リコール

**HOLD** + **3** + **3** ⇒ **3 3** 再度でOFF

待ち受け指定をしている群番号を全てリコールする機能です。待ち受け設定は 8P ⑬ を参照下さい。

⑪ タイマーリコール

**HOLD** + **3** + **4** ⇒ **3 4** 再度でOFF

通話中に、自動的に、3分間ごとにリコールします。

⑫ 受信感度低減

**HOLD** + **4** + **1** ⇒ **4 1** ⇒ RXLランプが点灯 再度でOFF

無線機の受信感度を低下させる機能です。遠距離からの混信がある場合などに有効です。

⑬ 送信出力低減

**HOLD** + **4** + **2** ⇒ **4 2** ⇒ TXLランプが点灯 再度でOFF

無線機の送信パワーを下げる機能です。遠距離へ妨害を与えている場合に有効です。

⑭ ローカルモード

**HOLD** + **4** + **3** ⇒ **4 3** ⇒ LOCALのランプ点灯 再度でOFF

通話する相手をローカルモードで呼び出します。呼び出された相手は、自動的に受信感度、送信出力低減状態になって呼び出されます。

リザーブメモリーは、全部で8個ありますが、9個目を記憶させると、1個目が消えてしまいます。別項目に、リザーブメモリーについての詳細を記していますので、そちらを参照下さい。

⑮ 一分間モード

**HOLD** + **4** + **4** ⇒ **4 4** ⇒ 1MINのランプ点灯 再度でOFF

通話する相手を、1分通話モードで呼び出します。

## HOLDの各般機能 2

HOLD+5~8について

HOLD を押すと ⇒ F 5 6 7 8 のセット、解除の確認が出来ます。

① ATIS信号カット

HOLD + 5 ⇒ F 5 再度でOFF

PTTを握った時、離れた時のATIS信号を止めてしまいます。ただし、リコールは出来ます。

② 群番号解読

HOLD + 6 ⇒ F 6 再度でOFF

受信の時、ATIS信号を受けた群番号を表示させます？

③ 制御信号の妨害

HOLD + 7 ⇒ F 7 再度でOFF

制御CHに妨害を与える機能です。一般の制御CHでの無変調と違い、信号の上にだけ混信を与えますのでリコールが打てなくなりはありません。信号を受信している側への妨害です。なお、リセット中の状態だけ機能が動作します。

④ 80CH ⇔ 158CH 切り替え

HOLD + 8 ⇒ F 8 再度でOFF

呼び出し、モニターの際のスキャンの幅などを、80CHか158CHモードが選択出来ます。

⑤ 切断信号

HOLD + 9 ⇒ CUT 再度でOFF TXランプが点滅し、Sメーターが振れっぱなしになる

セットしている群番号で、切断信号を送信します。ここでいう切断信号とは、自局に暗証コードのない場合のことです。暗証コードがわからないため、すべてに該当するコードを送信します。送信終了までに、約2分間かかります。また、通常の切断信号（通話状態から、自局と同じ暗証コードを持つ局をリセットさせる）を送出する場合には、本体のENDキーを1秒以上押します。

⑥ 動作音の変更

HOLD + 0 + 0 + ..... ⇒ F H · F L · F 0

HOLDに続く 0 の回数で変化します。 動作音 大      動作音 小      動作音 無

⑦ 目覚まし時計

HOLD + C ⇒ 00-00 + C + 0 + 8 + 0 + 0

上記では、8時間後に、ピーピーという音を発して、時間になったことを知らせます。

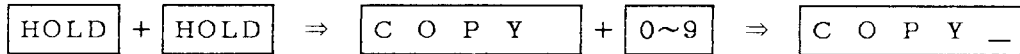
⇒ 08-00

⑧ タイマーカット

HOLD + M ⇒ CUT タイマーカットON 再度でOFF ⇒ t-ON

呼び出しを受けた後のタイマー ON/OFFです。ONなら30秒後にリセットします。

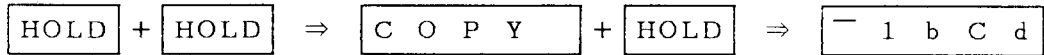
⑨ 群番号吸い取り



群番号解読の時、表示された群番号を、自分のメモリーにコピーすることが出来ます。コピーしたい群番号が表示されたら、上記の操作を行います。但し、以前に記憶されていたメモリーは消されます。

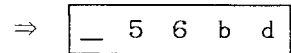
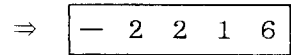
免許番号に関する機能

① 免許番号吸い取り

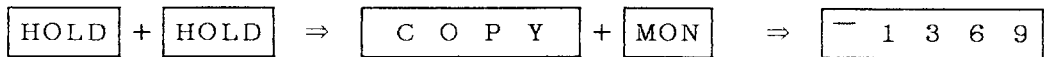


受信したATIS信号の中の、免許番号を、自局のものにして  
しまいます。吸い取った免許番号を、表示します。

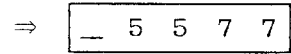
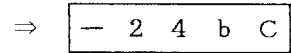
右記のように、3回にわけて表示されます。



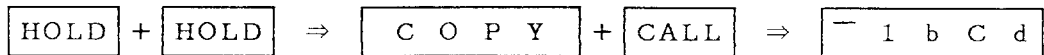
② 自局の免許番号の表示



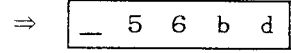
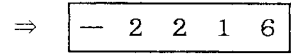
現在使用している自局の免許番号を、表示させます。



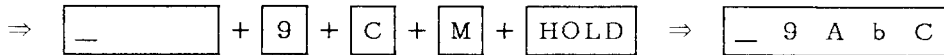
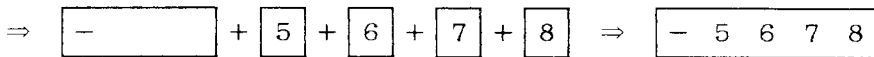
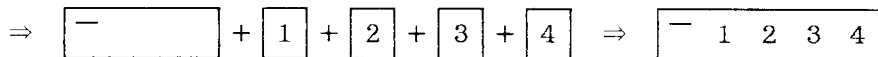
③ 相手局の免許番号の表示



受信した、ATIS信号の中の免許番号を表示させます。



④ 免許番号を作る



これで、免許番号は、1234567890AbC となりました。キー入力の際のアルファベット  
入力は、群番号と同じです。

## その他の機能

### ① 免許番号で待ち受ける

**HOLD** + **CALL** ⇒ **A T I S** セット (再度でOFF) ⇒ 群番号表示

リセット中、自局の免許番号と同じ局にだけ呼び出しを受け付けます。  
群番号は関係なくA T I Sの中の免許番号だけに答えます。あらかじめ相手の免許番号を吸い取っておくか、記録しおいて免許番を打ち込んでから使用して下さい。なお、免許番号で待ち受けしている時は、他の待ち受けは無効になります。全群番号待ち受けがセットされている時、そちらが優先します。

### ② 全群番号待ち受け

**HOLD** + **MON** ⇒ **A L L** セット (再度でOFF) ⇒ **G U N**

呼び出し、リコールを行っているすべての信号に対して、受け付けします。

### ③ チャンネルメモリーの仕方

S F Xは10個のチャンネルメモリーが出来ます。

#### ○ メモリーする

まず、記憶させたいCHにセットします。

例 100CHにセットする。 **C** + **1** + **0** + **0** + **MON** ⇒ **0 100**

100CHにて、モニター状態になります。その後、例としてCHメモリー1に記憶する

**M** + **HOLD** ⇒ **SET--** + **1** ⇒ **SET-1** 100CHがCHメモリー1にセット完了

また、通話状態 (レディ) の時、そのCHをメモリーしておきたい場合には、上記操作のほかに、以下に示す方法でも行えます。(50CHで通話していたとします)

**MON** ⇒ **SET--** + **2** ⇒ **SET-2** 通話していた50CHがCHメモリー2にセットされました。

#### ○ メモリーしているCHに移る (メモリーを呼び出す。)

先程、CHメモリー1に入れた、100CHを呼び出してみます。

**M** + **MON** ⇒ **SET--** + **1** ⇒ **0 100** 100CHでモニター状態となる。

また、CH設定といた方法でも行えます。CHメモリー2を呼び出してみます。

**C** + **2** + **MON** ⇒ **0 50** 50CHでモニター状態となる。

ここで注意する点は、CH指定の時は、2. または3桁入力でしたが、1桁入力の場合は、CHメモリーの指定と解釈します。

メモリーセット、呼び出しとも、0~9までの10CHのCHメモリーが使用出来ます。

リセット、モニター、レディ、送信中のいずれの場合からでも、CHの移動が瞬時に行えます。また、設定した時のモードも同時に、記憶しています。CHメモリー呼び出しにも、その、モードに自動的に移ります。